

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	青森県五所川原市梅田字福浦475-13		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>* 利用者の日々の生活状況において、様々な変化や状態に合った対応が出来るよう、申し送り時の他話し合う場を作り、職員が状況を把握・共有し動けるように努めています。                  * 昼食前の口腔体操・毎食後の口腔ケアをすることで、清潔や嚥下防止に取り組んでいる。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>保育園が併設されており、桜祭りや運動会など季節に合わせた行事が合同で行われている。また、日常的な生活の中でも保育園児がホームに遊びに来たり、知人が面会に来たりと地域と触れ合う機会が多い。                  災害対策においては、地域住民の理解のもとに協力体制が確立されている。また、理事長が近隣に在住しており、24時間いつでも駆けつけることができる体制となっている。地震や火災、夜間など、様々な状況を想定した防災訓練が行われており、非常災害に備えている。                  職員は利用者個々の性格や生活習慣の理解に重点を置いて業務にあたっており、職員間の話し合いの機会も多く、職員一人ひとりの意見を取り入れながら試行錯誤し、臨機応変に対応している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に対する尊厳を持ったケアと地域との連携を目標にした理念をホールに掲げている。また、日々確認し合うよう、声を掛け合っている。	運営理念は見直しが行われ、地域との関係性に基づいた理念となっている。また、朝、夕の申し送りに限らず、日常業務の中でも職員が意識できるよう確認し合い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容室を利用。また、利用者が以前利用されていた、床屋さんに訪問依頼し、関わりを継続。地域の住民、保育園児との交流を深めるためのふれあい遠足に参加している。	併設されている保育園との交流があり、桜祭りや運動会、その他の行事等の触れ合う機会も多い。また、知人が訪問したり、外出の帰りに知人宅に寄ったりと関係性の維持が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験依頼を取り入れ認知症の理解を深めていただくと共に、質問や疑問を訪問時に話し合い、より深い理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。市職員・町内会長・家族・退所された利用者の家族も継続し、出席していただいている。意見や報告を通して、サービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催され、行政職員、民生委員、町会長、利用者及び家族等が参加されている。防災協力や外部評価の結果報告、地域行事についてなどが話合われ、町会長や民生委員等の意見も多く出るため、双方向的な会議となっている。不参加者には議事録のコピーを配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、窓口訪問や電話連絡にて相談や情報交換をしている。	運営上の疑問等が生じた際には、電話や場合によっては直接出向いて相談し、問題解決に努めている。また、情報交換もその都度行っており、関係性も維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを職員で実践している。やむ終えない場合は家族に相談し、記録に残すように説明している。ホール全般、見渡せるようになっており、夜間以外は玄関、居室の施錠はしていない。	夜間以外は施錠はしておらず、職員の見守りで対応されている。身体拘束のマニュアルが整備され、会議や申し送りにて意識統一が図られている。	身体拘束についての外部研修参加がなく、ホーム内研修も定期的に行われていない。身体拘束に対する全職員の理解をさらに深めるため、今後は内部研修を年間計画に組み込むなどの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部会議でマニュアルを確認し合っている。職員の言動を自己評価で振り返り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料の確認をすると共に、制度を利用している入居者がいるので、会議での報告や利用の状況についても報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、説明・理解を図っている。説明を進めていくうえで、疑問や不安について時間をかけて納得を得れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口に関係機関の明示をし、意見を述べられるようにしている。また、電話や面会時の意見交換・要望を聞き入れるよう配慮している。	苦情受付窓口は重要事項説明書に記され、入居時には本人・家族に説明が行われている。職員は面会者に要望を聞いたり、意見を吸い上げるように意識して業務にあたっている。また、苦情に関しては決められた様式に記入され、法人代表者、管理者、職員で話し合い、苦情処理に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や申し送り時の意見、提案の検討をし、より良い運営が出来るようにしている。また、個人面談を通して意見を述べる場を設けている。	代表者は、職員に対して個人面談を行っており、職場の人間関係や悩み等の把握に努め、助言する等積極的に取り組んでいる。また、管理者は、会議や申し送りで出された職員の意見を検討し、業務に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見・要望があれば、その都度代表に提案できるよう配慮されている。また、定例会議で話し合う時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修他、定例会議や申し送りや内部勉強会を行ったり、自己評価をし、日々の業務に活かせる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西北五グループホーム協会の研修会に参加し交流に努めている。また、情報等をその都度職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に状況を確認したり、入居前担当者に情報を得ながら、対応を考え実践している。意見を述べやすいよう、信頼を持てる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活状況を報告し、家族の要望や不安の傾聴に努めながら、より良い関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いをしながら、意見や要望を聞くことで、必要な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有スペースを利用し、良い関係を築けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いを受け止めながら、訪問時一緒に過ごす時間や、気軽に訪問できるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	商店訪問や電話連絡調整、家族への依頼等、本人の状況や体調を考慮し、できる範囲で支援している。	季節毎に外泊したり、知人の訪問があったり、通いなれた美容院に外出したりと馴染みの関係性の維持に努めている。家族との交流にも配慮され、適宜連絡して外出や面会を依頼する取り組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごせる場へ、誘導・声掛けをし、交流ができるよう支援。また、関係の変化も日々の観察から察知し、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活や体調の把握が、できるようにして連絡調整をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態や言動の変化から、思いや希望の読み取りを心掛けている。その都度、職員で話し合い、家族との情報交換にて検討している。	職員は、日常業務において利用者と寄り添うケアを念頭において接している。日々変動する利用者の状態に合わせて臨機応変な対応が行われている。また、変化に合わせて職員間で話し合い、対応策が検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人、関係者に情報を頂き、生活歴や病歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報の他、本人との会話、日々の生活から本人を知り全容の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議の中にカンファレンスを取り入れるほか、本人や家族との話し合いから、安心した生活がおくれるような計画を作成している。	3ヶ月に1回、介護計画の見直しが行われ、担当者会議も同じく開催されている。職員の意見が介護計画にも反映されており、日々の状況変化において対応の検討もなされている。また、担当者会議の他に、毎月ケース会議が行われており、職員の意見に基づいて現状に合わせた対応が検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時や日々の情報交換から、変化や必要な支援を話し合い、見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り時や日々の情報交換から、その時にあった対応ができるよう、話し合い実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育園の行事に参加したり、知人宅への訪問等、家族の協力を得ながら、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続の他、希望の医療機関、ホーム協力医の利用、本人や家族の意向を聞き、対応している。	入居時に協力医に関する十分な説明が行われており、家族の要望に応じてかかりつけ医の継続か協力医への変更で対応されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や疑問を看護師に伝え、状況によっては早急な受診で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と家族との連絡にて状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化等においては、家族、病院とも連絡しあっているが、設備の面で対応が十分でなく、状態によっては他施設に移動となることがある。	現在、看取り介護は行われていないため、ホームの環境や対応できる限界を入居時に説明している。また、重度化が進む利用者については、状態に応じて都度家族に説明し、対応が困難となった場合には意向を確認し、他施設を紹介するなどの対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の看護師が中心となり、利用者の状況変化時の対応方法を聞いているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施、夜間想定訓練はそのうち1回行っている。近隣住民、推進会議委員にも協力をお願いしている。	緊急連絡通報装置により、全職員に連絡が伝わる環境となっている。避難訓練は年2回行われており、地震想定や夜間想定等の訓練も実施されている。運営推進会議において協力依頼をするなど、近隣住民の協力体制も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や状態を知り、それにあった声掛けを実践している。	職員は、個々の利用者の性格に合わせた臨機応変な対応を心掛けるとともに、職員間で情報収集に努めている。事業所では、職員採用時に個人情報保護に関する誓約書を作成し、退職後の管理もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるように配慮し、混乱しないような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、個人のペースで過ごせるよう、配慮している。また、職員間で情報交換し、利用者の希望を共有し、支援につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にできる限り対応し、好みやその人にあったおしゃれができるよう、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で一緒に準備し、楽しんで食事ができるようコミュニケーションを図りながら実践している。	食事メニューは月毎に職員が交代で作成しているが、日々の食事の準備や後片付けなどは、個々の利用者がそれぞれ役割を持って行っている。誕生日や行事の際には利用者の要望を聞き、特別メニューを提供したり、時には外食をするなど、食事を楽しめるような取り組みがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや状態について、職員で話し合いその人にあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをし状態の把握に努めている。週2回、義歯洗浄をに対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿・排便チェック表を用いて回数を確認、習慣の把握することで、本人のパターンで排泄ができるよう取り組んでいる。	排泄チェック表を作成することにより、排泄パターンを把握し、トイレ誘導に徹している。入居時にオムツを着用していたが、現在はトイレ誘導により下着を着用している利用者もあり、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の工夫、水分摂取の確認、服薬による排便調節に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日の決まりはあるものの、希望にできる限り対応の体制となっており、家族や本人にも伝えている。	週に2回の入浴日は決められているが、状況に応じていつでも入浴できる体制が取られている。また、入浴できない場合には全身清拭や手浴、足浴で対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を把握し、本人に合った状況で休めるような声掛けや誘導を心掛けていおる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が申し送り時や受診の状況や記録を個人の受診記録ノートにまとめ、職員が周知できるようにしており、いつでも確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの情報を確認し、楽しみや気分転換が図れるように、レク参加や本人の楽しみを見出せるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態を考慮しながら、外出希望や買物、外食の支援をしている。また、家族と連携をとり、外泊や外出の支援につなげている。	近隣の商店にアイスを買に行き、そのまま近くのあずまやでアイスを食べたりと、日常的に外出を支援している。本人の意向で家族に連絡して外出を依頼したり、近隣の通い慣れた美容院の利用にも対応されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のできる範囲で対応。買物時は自分で支払いができるよう付き添い、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応できるようにしている。また、家族にも了承を得て対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい雰囲気になるように季節の花を飾ったり、状態の変化に対応できるよう、椅子やテーブル、ソファの場所を変えたり、生活しやすいようにしている。	食堂とホールはカウンターで繋がっており、食事の匂いや準備、後片付けの音が聞こえ生活感がある。また、食事の準備においてもホールが見渡せるため見守り支援ができる環境にある。壁には誕生者の紹介や行事の写真、利用者が制作した作品が飾られており、穏やかな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の雰囲気や、様子に配慮しながら共有空間で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを配置、家族や本人と相談しながら、配置、飾りつけに配慮している。	持ち込み品の制限をあまりせず、昔から使用している古いタンスを持参したり、配偶者や孫の写真を飾ったりと、個々の希望に合わせ、安心して生活できる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能を活かせるよう、安全性を考えた手すりの配置、トイレ、浴室がわかるように工夫している。		